

---

# 「みんなの使いやすさラボ」のご紹介

---

## 1 「みんなの使いやすさラボ」(通称：みんラボ)とは？

まちの主役であり、生活者である住民の皆さんと企業、大学などが一緒に暮らしを豊かにするためのサービスやものを生み出したり、よりよいものにしていく活動や活動の場を、「リビング・ラボ」と言います。

平成24年4月、筑波大学はつくば市型リビング・ラボとして、「みんなの使いやすさラボ」(通称：みんラボ)を開設しました。

みんラボの目的は、豊かな高齢社会を目指し、「高齢者にとってそのモノはどのように使いにくいのか」を明らかにし、「モノの使いやすさ力を高める！」ことです。

## 2 みんラボではどんなことをしているの？

地域の高齢者の方々、企業や団体、大学などが協働して、「商品の使いやすさの検証実験」、「自宅で実際に使ってみる(製品モニタリング)」、「使いやすさについて徹底討論」などの活動を行っています。

例えば・・・

歩行補助車の使いやすさ検証実験、食品包装の開けやすさの検証、摂食回復支援食の試食、大学病院の使いやすさ調査、など。最近では、羽田空港での「顔認証ゲート出入国管理システムにも協力しました。



歩行補助車検証実験の様子



摂食回復支援食の試食の様子

## 3 I A U D アワードを受賞

国際ユニバーサルデザイン協議会 ( I A U D ) による、ユニバーサルデザインの理念を達成するための優れた活動として、みんラボは、 I A U D アワード 2 0 1 4 ソーシャルデザイン部門金賞を受賞しました。